

あいサポート・アートとっとり展

だれもが才能の持ち主

あいサポート・アートとっとり展 webmagazine

@もみの木福祉会



米子市の穏やかな住宅街の中にある「もみの木福祉会」にうかがいました。アート活動のアトリエがある、もみの木ふれあい会館の窓からは、作家の足立さんが描いた個性的な亀や仮面ライダーが出迎えてくれます。館内の壁には様々なアート活動の中で生み出された作品がたくさん展示してあり、日頃の積極的な活動がうかがえます。

アトリエ内は穏やかで居心地のいい空間。作家たちはソーシャルディスタンスを保って制作に集中していました。

現在、同じ施設で活動している作家の亀田さんとの合作に取り組んでいる木村さん。彼女は小さなお花やさんかくなど、細かい描写を好んで描いています。豪快で線が太い亀田さんの描写に対し、細かく繊細な木村さんの描写は対照的で、興味深く、面白い作品が仕上がりそうです。



合作に取り組む木村さん

その日描きたい文字を、用紙に詰めるように描いていき、作品にする表敷さん。日に日に文字が模様のような絵に仕上がって、独特な雰囲気のある個性的な作品になっていきます。文字の形に意味がありそうですね。



表敷さんの作品



表敷さん作成風景

右の写真は、アートティーチャーとして作家のみなさんに作品についてのアドバイスをされている、玉井詞(たまいつかさ)先生(絵本作家、画家)。先生は、作家たちの自由な創作の見守り役、合作という新しい障がい者アートの価値を模索されている方もあります。

自由な色彩感覚、描写で玉井先生と合作絵本の作家としてデビューも果たしている足立さんも熱心に作品制作をしていました。



作家の足立さんと玉井詞先生

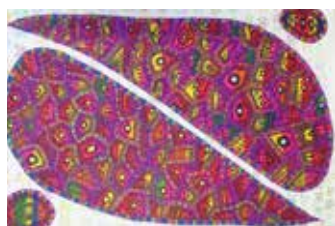
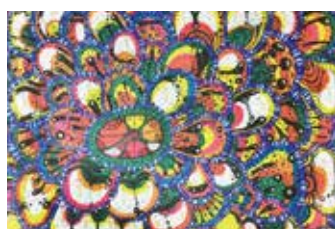


足立さんの作品



合作絵本「でろでろばあ」

絵本「でろでろばあ」にも見られるように、「もみの木福祉会」のアート活動において特徴的なのが、玉井先生と施設内で創作活動をされている作家たちとの共同作品制作「もみの木アートアンサンブル」です。各個人の得意な描写を一枚の画用紙に複数人数で描くことにより、違った作品に変化し、さらに玉井先生が加わることによって、新しいアート作品を生み出しています。作品をよく見ると一人一人の作品が重なって描かれているのがわかります。そうやって描きためた 200 点を超える作品は、様々なコンテストにも出展していて、県展では二年連続の入選、米子市展でも市展賞、奨励賞を受賞しています。



「もみの木アートアンサンブル」の作品の一部



「さくら」(2017 県展入選) 作者/西岡和子 玉井詞 合作

各々の個性が幾重にも重なる、共同制作の数々。「もみの木福祉会」独自の活動を見ることができました。